

平成27年度第2回向日市総合教育会議会議録

日 時：平成28年1月13日（水）

午後6時30分から午後7時30分まで

場 所：向日市民会館 第2会議室

出席者：安田市長、永野教育長、前田教育長職務代理者、白幡教育委員、
松本教育委員、流石教育委員

事務局：今西市長公室長、長谷川企画調整課長

野田教育部長、渡辺教育部次長 兼 文化財調査事務所長

清水教育部次長 兼 生涯学習課長

浦元教育総務課長、吉田学校教育課長

奥村学校教育課担当課長、小畑学校教育課担当課長

麻野教育総務課係長、三由教育総務課主査

傍聴者：1名

安田市長：

総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

浦元教育総務課長：

1名おられます。

安田市長：

傍聴を希望される方が1名おられるとのことでした。

この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第1条の4第6項及び「向日市総合教育会議運営要綱」第3条第1項の規定により、原則公開となっておりますことから、本日の会議は公開するというご承認いただきたいと思いますと思いますが、これについてご異議ございませんでしょうか。

出席者一同：

異議なし。

安田市長：

それでは、ご異議がないということで、会議は公開で進めることといたします。傍聴希望者にお入りいただきください。

改めまして、皆様こんばんは。市長の安田でございます。

ただいまから平成27年度第2回の向日市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、本日はご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素より向日市の教育行政の推進に格別なるご尽力とご協力をいただいておりますことに、改めて御礼申し上げます。

この総合教育会議も2回目となりました。これから先、本市の教育に関する様々な問題を皆様と協議させていただきたいと思っております。第1回目の総合教育会議のときも申し上げましたが、この会議のあるべき理由というのは、教育行政を教育委員会や教育部だけに任せない、市長部局もしっかりと責任を取るということ、そして、教育委員会や教育部はしっかりと市長部局、あるいは行政全体の目から見ていいものを選んでいくということだと思っております。これからも、引き続きしっかりと考えていきますので、よろしく願いいたします。

さて、本市におきましては皆様ご承知のとおり、ふるさと向日市創生計画の策定に取り組んでおります。この計画は、我々の生まれ育った、そして今住んでいるこのふるさと向日市が、都市基盤整備、福祉や教育など様々な面でこれから目指すべき道を示すものでございます。

そういった中で、教育大綱につきましては、昨年8月に開催いたしました第1回総合教育会議におきまして、このふるさと向日市創生計画と並行して策定を進めるということで、皆様にご了承をいただいております。本日の会議におきましては、本市にとりまして一番ふさわしい教育大綱、本市が進めるべき教育のあり方というものについて論じていただきたいと思いますし、これからも教育委員会と本市の教育について論じながら、よいものを目指していきたいと思っております。

それでは、議題に入らせていただきたいと思います。

議題の1番目「教育大綱の策定について」でございますが、冒頭にも申し上げましたように、教育大綱については、ふるさと向日市創生計画と並行して策定していくということでご了承いただいたところであります。

このことを踏まえて、教育委員会におかれましては、この計画（案）に記載されている教育関連の項目について、ご議論を重ねていただいたとお聞きしておりますが、何点かお諮りしたい点がございます。

お諮りする前に、まずは、「ふるさと向日市創生計画」策定について、これまでの経過などについて、事務局から説明をお願いします。

今西市長公室長：

まず説明の前に報告をさせていただきます。これまで計画の名称といたしまして（仮称）向日市ふるさと創生計画としてきたところでございますが、本計画につきましましては、ふるさと向日市の創生のための計画という市長の意向がございまして、名称をふるさと向日市創生計画とさせていただきます。きたく考えております。

それでは、ふるさと向日市創生計画について、説明させていただきます。

本計画は、向日市がこれから先どうあるべきか、どうすべきか、どのようなまちにしたいかをしっかり考え、すべての市民の皆様に向日市がふるさとであると思っただけのよう、歴史を活かしたふるさと向日市の創生を図るため策定するもので、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とし、今後、本市が目指すべき方向性を示したまちづくりの最上位計画と位置付けるものです。

本計画は、市民の皆様が誇りを持てるまちづくりを進めるため、史跡長岡宮跡等歴史あふれるまちの魅力の発信や、より一層の地域資源の活用、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行っていくため、「歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり」「人と暮らしに明るくやさしいまちづくり」「信頼と協働で市民の声が届くまちづくり」の3つを本計画における施策の柱とし、それに関連する施策分野と具体的な施策で構成しております。

そして、施策毎に基本方向、取組、施策が目指す姿・目標を記載しておりまして、基本方向欄には、この施策をどういう方針で進めていくのか、取組欄には、どういうことに取り組むのか、そして、施策が目指す姿・目標欄には、この5年間の計画期間の間にどういうことを実現するのか、どういう目標を達成するのかを、数値化できるものについてはできる限り数値目標を交えて掲げております。

なお、本計画においては、既に実施している取り組みや法令上義務づけられている取り組みなどを網羅的にすべて記載するのではなく、新しくチャレンジする取り組みや充実・拡大する取り組みを記載することで、重点的・優先的に課題に取り組む姿勢を明らかにしております。

計画の策定にあたっては、市民アンケートの実施や、有識者・公募市民などで構成する向日市ふるさと創生計画委員会での意見交換を行ってまいりました。今後、市議会議員への説明やパブリックコメントを通して、よりよい計画となるよう、取り組んでいくものであります。

なお、このふるさと向日市創生計画につきましましては、毎年、社会情勢等の本市をとりまく環境を見極めながら、進行管理を行い、見直すところは

見直していくというスタンスで取り組んでいくものでございます。

以上、簡単ではございますがふるさと向日市創生計画の説明とさせていただきます。

浦元教育総務課長：

ただいま、ふるさと向日市創生計画について、策定にあたっての考え方や経過など、その概要について説明がありました。私の方からは、この計画の教育委員会所管分該当箇所をご説明申し上げます。

これまでから、教育委員会会議でもご協議いただいたところではございますが、確認の意味で該当箇所について、ふるさと向日市創生計画（案）をご覧いただければと思います。

まず1つ目、柱1の1ページ「歴史を活かし、活力と魅力のあるまちづくり」においては、施策分野1「歴史あふれるまちづくりの推進」の中で、施策1として「歴史・文化資源の整備と活用」が掲げられております。

次に、柱2「人と暮らしに明るくやさしいまちづくり」でございます。11ページから13ページにわたりますが、施策分野10「学校教育の充実」においては、施策1「学力の向上と個性を伸ばす教育の推進」をはじめとし、施策2「豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進」、施策3「健やかな身体の育成と体力の向上」、施策4「家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり」、施策5「教職員の資質能力の向上」、施策6「安心・安全な教育環境の充実」と、6つの施策が掲げられております。

また、同じく柱2の14ページには、施策分野11「生涯学習の推進」の中で、施策1「生涯学習環境の充実」、施策2「家庭・地域社会の教育力の向上」が掲げられております。

そして、施策分野12「生涯スポーツの振興」では、施策1として「スポーツの振興」となっております。

以上、ふるさと向日市創生計画（案）の教育委員会所管分該当箇所について、ご説明申し上げます。

安田市長：

ただいま、事務局から「ふるさと向日市創生計画」について説明がありました。

それでは、教育大綱の策定について、皆様にお諮りしたい点の、まず1点目ですが、この「ふるさと向日市創生計画」の教育委員会所管部分を教育大綱と読み替えることとするか、あるいは、教育委員会所管部分を抜粋

して別途教育大綱を策定することがよいのかという点でございます。

私といたしましては、本市の教育行政がどのような方向性を持っているのかを、市民の皆様にごできるだけ分かりやすい形でお示しするためには、別途、教育大綱を策定することが適切ではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

出席者一同：

異議なし。

安田市長：

それでは、本市の教育大綱につきましては、ふるさと向日市創生計画の読み替えではなく、別途策定することとさせていただきたいと思っております。

次に2点目ですが、教育大綱を別途策定することになりますと、この計画（案）に記載されている内容のどの部分を教育大綱にあてるかということについてでございます。

国の通知では、教育大綱は、「地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求めているものではない。」とされております。

このことから、計画（案）に記載されている「施策分野」や「施策」、「基本方向」、「施策が目指す姿」を教育大綱に記載することとし、「取組」や数値目標につきましては、記載しないことが適切ではないかと思われませんが、いかがでしょうか。

流石教育委員：

ふるさと向日市創生計画については、毎年、見直しをされるということなので、「取組」や数値目標を見直す余地を残すためにも、市長のおっしゃるとおりでよいのではないのでしょうか。

松本教育委員：

私も、教育大綱については、詳細な施策を記載するよりも「基本方向」のような大枠で定めた方がよいと思っております。

安田市長：

それでは、ふるさと向日市創生計画の「施策分野」、「施策」、「基本方向」、「施策が目指す姿」を教育大綱に記載することとさせていただきたいと思います。

次に3点目ですが、教育大綱に記載する順序についてでございます。

ふるさと向日市創生計画では、「歴史あふれるまちづくりの推進」、「学校教育の充実」、「生涯学習の推進」、そして、「生涯スポーツの振興」という順序にしておりますが、教育大綱に記載する順序につきましては、いかがでしょうか。

白幡教育委員：

歴史文化の順序については、最後の方がよいのではないのでしょうか。市全体として歴史文化を重要視するのも大切ですが、教育委員会が直接的に関心を持っているのは、学校教育であり、次に生涯学習、スポーツの順で、歴史文化については、最後ではないのでしょうか。

前田教育長職務代理者：

私も白幡教育委員の意見に賛成です。「学校教育の充実」、「生涯学習の推進」、「生涯スポーツの振興」、「歴史あふれるまちづくりの推進」の順序でよいと思います。

安田市長：

それでは、「学校教育の充実」、「生涯学習の推進」、「生涯スポーツの振興」、「歴史あふれるまちづくりの推進」という順序とさせていただきたいと思います。

次に4点目ですが、教育大綱には、ふるさと向日市創生計画（案）に記載されている施策の内容以外に、対象の期間についても、記載することが必要であります。

対象の期間については、国が4年から5年程度を想定していることや、先ほど事務局から説明がありましたとおり、ふるさと向日市創生計画の計画期間を平成27年度から平成31年度までとしていることから、教育大綱の対象期間についても、これに合わせることも、市民の皆様にとっても分かりやすいのではないかと思います。いかがでしょうか。

出席者一同：
異議なし。

安田市長：
それでは、教育大綱の対象期間は、ふるさと向日市創生計画と合わせて、平成31年度までということにさせていただきたいと思います。

その他に何か、教育大綱の策定についてご意見はございますか。

永野教育長：
別途教育大綱を策定するにあたりましては、教育施策の方向性や目指す姿など以外にも、教育大綱の持つ意義や策定の趣旨なども記載して、その位置付けを市民の皆様にご一定分かりやすくお示しすることが必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

安田市長：
永野教育長から、大綱の持つ意義や、策定の趣旨なども記載してはどうかというご意見をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

出席者一同：
異議なし。

安田市長：
それでは、本市の教育大綱には、大綱の意義、策定の趣旨、対象期間などを記載することとさせていただき、次回の総合教育会議において、教育大綱の全体像を案としてお示しさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、議題の2番目「来年度以降の教育施策について」に入らせていただきたいと思います。

これまでから、教育委員会におかれましては、歴史文化資源の整備や、学校施設の設備・備品などハード面の整備とともに、子どもたちの学力向上や心の教育の推進、そして、地域との連携、また、市民の皆様が生涯にわたって多様な学習活動を支援していただくなどソフト面においても、多岐にわたり様々な施策に取り組んでいただいているところですが、来

年度以降、教育委員会の皆様から見られて、本市の教育施策についてどのような事業に取り組んでいくことが適切であるか、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

流石教育委員：

子どもたちが安心・安全な環境で学習に取り組めるよう、これまでに校舎や体育館の耐震化に取り組んできました。

しかしながら、各小中学校を訪問させていただくと、子どもたちのカバンを入れる棚が痛んでいるなど、校舎が建築から長い年月が経って老朽化が進んでいるところが多く見受けられます。

子どもたちの椅子等も老朽化しているので、予算のこともあると思いますが、学校間で環境に差が出ないようにお願いしたいと思います。

子どもたちが安心して快適に学習に取り組めるよう、改修に取り組んでいく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

安田市長：

私もすべての学校を見に行かせていただきました。そこで、子どもたちには少しでも綺麗な環境で学習をして欲しいと感じました。お住まいの地域によって通う学校が決まっているということから、一番大切なのは、学校によって環境に差があってはいけないということだと思っております。棚やトイレ等の改修を一気にすべて行うことは難しいですが、しっかりと考えていきたいです。

白幡教育委員：

各学校図書館は一定充実が図られていますが、各教室の学級文庫については、学校やクラスによって充実度合いにかなり差があります。子どもたちが本をすぐに手に取れる環境づくりは大切ですので、学級文庫についても充実をお願いしたいと思います。

安田市長：

予算面での課題もある中、子どもたちの本の購入費用にとご寄付をいただいております。これによって学校図書館の充実が一定図られていることは非常にありがたいことだと思っております。また、ご家庭に眠っている本の中から、教育にふさわしいものを活用させていただくようなこともできればと思っております。

白幡教育委員：

アイデアとしては素晴らしいと思いますが、家庭で不要な本が持ち込まれることで、かえって学校の負担にならないようにしていただきたいです。各学校、クラスの学級文庫ができる限り、充実するようにお願いしたいです。

安田市長：

私も子どもの頃は、夢のある本が好きでした。そういったことも思い返しながら、少しずつですが、しっかりと考えていきたいと思います。

松本教育委員：

子どもたちが伝統や文化に触れることができる体験活動や教職員の研修などの費用について、各学校に特色予算として措置していただいております。学校からの評価も高く非常にありがたいと思っております。各学校で力を入れたい事業もあるでしょうし、今後も継続して予算措置をお願いしたいと思っております。

安田市長：

決まった予算の範囲で事業を行うということよりも、こういう事業が必要ということを経験から自由に意見をあげていただくことも大切ではないかと思っております。子どもたちにとって、本当によい事業があるならば、どんどん言っていただきたいと思っております。予算面では、教育も重要ですが、福祉や建設など多岐にわたる事業があり、非常に厳しい状況ですが、限られた予算の中で優先順位をつけてやっていきたいと思っております。

松本教育委員：

学校訪問等で低学年の授業を見させていただきますが、なかなか授業に集中できない児童もおり、先生方は大変苦慮されている場面を見ることがあります。幼児期から小学校へいかに円滑につなぐことができるかが大切です。まずは学校を所管する教育委員会と保育所等を所管する市長部局が、行政間での連携を進めていただくようお願いしたいと思っております。

安田市長：

就学前教育と学校教育の連携は大変重要であると感じております。保育所や幼稚園など各施設によって子育ての進め方に違いがあると思っておりますの

で、しっかりと意見交換をしていくことが大切だと考えております。市民の皆様には、しっかりと子育てをして、そして、向日市の教育を感じていただき、ずっと向日市に住みたいと思っていただけるようにしたいと思っております。

前田教育長職務代理者：

不登校については、本市の小中学校における喫緊の課題であると認識しております。課題の解決に向けては、不登校児童生徒の早期解消も大切ですが、未然防止の取り組みがより大切であると考えております。専門指導員配置の面でも、必要な予算について、ご配慮いただければと思います。

安田市長：

不登校の未然防止は、非常に大切なことだと思っております。学校に来て人と触れ合うことが楽しいということを知ってもらえるような方策があればよいと思いますが、非常に難しい課題です。

永野教育長：

子どもたちと年齢の近い、大学院生を指導員としてもっと配置できれば、子どもたちの気持ちに寄り添うことができ、不登校の未然防止につながると考えております。

安田市長：

大学院生たちも、子どもたちに教えることがとても楽しいと感じているとお聞きしたことがあります。こういった関係性も非常に大切だと思います。

前田教育長職務代理者：

ふるさと向日市創生計画の施策分野「歴史あふれるまちづくりの推進」では、数値目標として、文化資料館入館者数や、朝堂院公園来訪者数の増加をあげられておりますが、これは、市民のみならず、市外からも広く多くの方に来ていただくことで達成できるものであると考えられます。

文化財保護・活用を担う教育委員会だけで、この目標を達成することはなかなか難しいと考えますので、市長部局で観光面での施策充実には是非とも力を入れていただきたいと思います。

安田市長：

歴史を活かしたまちづくりを統括する部署をつくり、いろんな部署と連携できるようにしたいと考えています。向日市検定の実施も検討しているので、職員の皆様にも活用していただき、向日市に対する知識を深め共有できるようにしていただきたいと思います。そして、市民の皆様だけでなく職員も向日市を好きになって欲しいと思っています。

いろいろとご意見をいただき、ありがとうございました。子どもたち、市民の皆様のために、前を向いていきたいと考えております。本日いただいたご意見を参考にしながら、また、財政状況を見ながらということになりますが、教育委員会とも連携を図りながらハード・ソフトの両面から、教育環境の充実に努めてまいりたいと考えております。委員の皆様におかれましては、今後も引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

次回の総合教育会議でございますが、教育大綱の策定について最終的な協議を行いたいと考えております。

先ほども申し上げましたように、ふるさと向日市創生計画の策定が本年3月になる予定でございますので、このことを踏まえながら次回の開催時期を検討させていただき、時期が決まりましたら、改めてご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上で、平成27年度第2回総合教育会議を終わらせていただきます。

閉会